家族の声

家族会員の一員として応援！

陸上自衛隊
札幌自衛隊家族会　西崎 初美

息子が高校の進路で自衛官になると決めて帰ってきました。

私達家族に自衛官がおらず、知らない事の方が多く正直不安がまずありました。

ですが、そんな私達に自衛官という道へ安心して応援できることを教えてくれたのは家族会説明会でした。

日常生活から仕事内容など現役自衛官、自衛官のご子息ご息女を持つ親御様からたくさんお話を聞くことができました。

息子が自衛官になってからの一年は、私たちにとって新たな経験であり心配もありましたが、息子からの連絡で先輩・仲間と協力し支え合いながら任務を果たしていることを実感し安心感が湧きました。

私も自衛隊について学び息子との絆を深めたく家族会に入会しました。

駐屯地の見学では息子の部屋や仕事内容を見ることができ、創立記念式典では立派になった息子の姿を見て涙が溢れました。

家族会に入会して本当に良かったです。

私も微力ながら一員としてお役に立てれば…と思っております。

自衛隊という国や国民の安全を守るため日夜活動している存在を多くの人々が感謝の念を持ち安全を祈りながら自衛隊の活動が順調に進むことを願っています。

自衛官として成長していく息子

陸上自衛隊
札幌自衛隊家族会　中村 美奈子

息子が高校３年生の12月、突然「俺自衛隊に行くから！」と話がありました。もともと進学予定ではなく、就職活動をしていた息子が「自衛隊」を選ぶとは、全く考えていなかった私はとても強い衝撃を覚えました。

何度も別の仕事の話や進学の話をしましたが、息子の意志は固くビクともしませんでした。当時の私は「自衛隊＝危険な仕事」と認識していたため、そんなところに行ってほしくない思いが大部分を占めていました。

でも入隊式に参列し、凛々しい息子の姿を見て気持ちが変わりました。どの子も本当に逞しく見えとても感動しました。息子が決めた自衛官としての道を尊重し、見守っていこうと心に決めました。

私は自衛隊の事を何も知らなかったので、少しでも理解し応援したいと思い「家族会」に入会しました。子供達が組織の中で頑張って行けるのは、周りで支えてくれる家族がいるからだと思ったからです。

あれから５年が経ちました。帰省するたびに心も体も成長し、仲間を思う発言や親を敬う気持ちが伝わります。自衛官は強い意志や思いがないと出来ない仕事、そんな仕事を息子が仲間と一緒に行っている事を誇り思っています。

きっとこれからも成長していく息子、息子の成長と共に親も一緒に成長していかなくてはいけないと改めて感じています。

私も息子に負けない様に、一番の応援団長として支えていき共に成長していきたいと思います。

「家族の声」への投稿募集！

皆様のご自慢のご子息ご息女の入隊・入校にまつわるお話を募集いたします。
文章（600字程度）と写真を下記アドレスにお送りください。
たくさんのご投稿をお待ち申し上げております。【7月末迄】
jkazokukai@jkazokukai.or.jp

陸上自衛隊

定年後20年の今「部隊と連携した家族支援協力（訓練）」の必要性

青森県自衛隊家族会　工藤 冬一

私は約20年前に定年となりました自衛隊OBです。息子も平成6年4月に入隊後、弘前～市ヶ谷～札幌～練馬と任地を替え今は、幹部となり第1師団司令部（練馬）で勤務中です。

息子の入隊を機に、自衛隊家族会に入りましたが、東日本大震災の被災地へ災害派遣され人命救助・被災物の除去などを実施中の39連隊・9偵察隊（約770名）へ激励に行く機会を得ました。沿岸地域の住宅地は津波により壊滅状態、数十隻の漁船がひっくり返っている状態の中、39連隊長の「自分の家族だと思って、任務にあたれ」との方針のもと、行方不明者の捜索と多くの犠牲になった方々を搬送している隊員達を見て、国民を守る自衛隊の姿を目の当たりにして感動致しました。一方、隊員家族も多く被災した多賀城駐屯地等の隊員は、自分たちの家族の安否確認が出来ないまま、災害派遣任務に就いていました。後に「家族はどうしているだろうか？」と心配でたまらなかったと聞きました。

その教訓から「隊員家族の安否確認」を実施するための、部隊側と自衛隊家族会等との協定が結ばれ、青森県家族会は平成26年度から令和5年度まで8回の訓練に参加しました。今後東北6県における「地震による津波」「大雨による土砂崩れ」が予想される地域では、自衛隊家族会と部隊との家族支援訓練の必要性が高まっています。青森県家族会に研修に来たい方は、いつでも歓迎します。

海上自衛隊

「家族を誇りに思う」

新潟県自衛隊家族会　太田 卓馬

三女（りん）は、コロナ禍により高校の授業はことごとくリモート授業となり、体育祭・修学旅行などの学校行事はすべて中止、何の思い出もできない残念な高校3年間となってしまいました。

そんな中でも嬉しいニュースがありました。我が家では、長女（七海）がH23年、次女（和帆）がH25年、長男（空）がR3年に海上自衛隊に入隊しており、そしてついに三女（りん）がR5(2023)年に入隊することになったのです。

この原稿を書いているのは夏ですが、三女は横須賀教育隊で教育の総仕上げの真っ最中。職種・勤務地は、WAVEの先輩である姉2人と航空学生として厳しい訓練を受けている兄の助言により、航空機体整備員として岩国の第31整備補給隊に決定したところです。

末っ子である三女は、運動部経験も無く、また誕生日の関係で着隊が1週間ほど遅くなったため、教育隊に馴染むことができるのか、体力は大丈夫か等々、心配の種は尽きませんでした。親の心配をよそに、教育隊では同期の仲間と苦楽をともにする濃密な時間を過ごし、何もなかった高校生活を遙かに上回るすばらしい仲間と経験を手に入れました。

諸外国で国防にあたる軍人は、最も尊敬される職業の一つです。私は、そのような職業を選択した娘、息子達をとても誇りに思っています。そして全ての隊員を応援しております。

家族の声

初心貫徹

防衛医科大
新潟県自衛隊家族会　白江 雄介

娘は保育園の未満児だった頃から、誰かの為に何かをすることに喜びを感じているような子でした。娘が4歳の時、彼女の妹を出産する場に立ち会ってくれました。赤ちゃんがどこから出てくるかを見ても全く動じず、私に実況中継をしてくれました。幼稚園のときに行った仕事体験のできる施設でも看護師の職業を迷わず選んでおり、物心つく頃から興味はあったようで、我が家ではそのときに撮った写真をずっと飾っています。海上自衛官だった伯父（私の実兄）と看護師の伯母に憧れたことで、看護師になりたいと言い始めるようになり、小学校の頃から娘の夢は決まっていたようです。年に数回、伯父に会うと災害対応や海外訓練、准看護師としての仕事、ダイバーとしての過酷な訓練、飽和潜水の話など、厳しい仕事内容から仲間との面白い話まで聞いていました。小学3年生の頃、防衛医科大学校看護学科のパンフレットを伯父が娘に渡してくれて、初めてその存在を知りました。娘はその時から「この学校に行きたい」と考え、そこから小中高と本当に迷うことなく、学校の先生にも塾の先生にも「防衛医科大学校の看護学科に行きたいです。」と言い続けていました。災害対応を行う看護師になるにはこの学校に行くしかないということが決め手でした。この春、無事入学を果たし同じ志を持つ仲間たちや先輩方との生活にやりがいを感じている娘を心から応援しています。

娘の成長を実感

防衛医科大（陸上自衛隊）
新潟県自衛隊家族会　鳥羽 貴仁

ついこの間防衛医大に入校したと思っていたら、娘は令和5年3月から自衛隊札幌病院に看護官として勤務している。今夏8月10日防衛医大入学希望者説明会のために長岡に帰省した。募集相談員である私も高校1年生の息子と会場に行った。参加者は地元長岡のほか新潟、新発田、高田などから集まったが、息子以外は全て女性だった。

DVDと広報官の補足説明の後、娘はもう一人の現役医学科生と入場、質疑応答となった。

娘は、防衛医大時代から現在に至るまでの経過を話したが、その際の態度と物怖じしない応答の速さ、的確さに一驚。そのとき初めて分かった。子どもだと思っているのは父親だけで、本人はこの5年間の自衛官生活で、私など思いもつかぬ訓練、学問、組織の中での身の処し方、同期の絆、先輩後輩の在り様など、同年代の一般女性とは比較できないくらいの経験を積み重ね大きく成長してきているのだなと、改めて思い知らされ見直した。

娘は高校時代から集団のリーダーとしてふるまってきていたように思う。医大時代も看護官としてもおそらくそれは変わるまい。この娘が産まれた時にいただいた巌師の命名書に、「この子が14, 15歳になれば世の中の役に立つ人間になれるかどうかわかる」とあったことが忘れがたい。『健康に留意して、今生の使命を果たし、大勢の人たちの幸せのために生きていってほしい』父としての願いはこれに尽きている。

私事ながら実は自衛官としての父としての喜びと誇りをひそかに味わっている。これからも私なりに募集相談員としての活動を続ける所存でいる。

「家族の声」への投稿募集！

皆様のご自慢のご子息ご息女の入隊・入校にまつわるお話を募集いたします。
文章（600字程度）と写真を下記アドレスにお送りください。
たくさんのご投稿をお待ち申し上げております。【7月末迄】
jkazokukai@jkazokukai.or.jp

中学から高等工科学校へ

陸上自衛隊
愛知県自衛隊家族会　川口 充美

12年前、中学二年生だった息子へ高校進学は職業まで視野に入れるように言っていました。後から知りましたが、当時の息子は様々な知り合いの方々に相談をしていた様で、皆様に真剣に思案して頂き、体力・性格等を考慮すると自衛官が向いていると、複数の方々に言われました。本人もその気になり、陸上自衛隊高等工科学校に無事合格しました。

それでも15歳での寮生活は親子共々不安で、入校式当日の写真を見返すと、泣きそうな二人の写真になっていました。その後は区隊の班長、対番の先輩、同期に皆さんからのお力添えを頂き、徐々に学校に慣れた様でした。私は愛知県の家族会の方々、息子の同期の全国様々な地域の母友と有難いことに仲良しになり、親同士の情報交換などを通じて、何時しか不安が無くなり息子の応援団になっていったと思います。

高等工科学校卒業後、陸上自衛官として那覇駐屯地へ。沖縄の風が性に合っていて、様々な方々と友達になって楽しく過ごしている様です。その中にアメリカ軍の方々もおられ、一緒に沖縄県内各地へのボランティア活動等へ出掛けたりして親交を深めた様です。2019年度には「ＵＳＯ沖縄サービスサルート（日本と米国との親交に寄与）」という賞を頂きました。幼い頃から皆様に可愛がって頂き、今は自衛官という自分の道を突き進む我が息子、これからも頑張ってもらいたいです。

自衛隊と共に

海上自衛隊
大阪府自衛隊家族会　渡邉 節子

幼い頃から乗り物が大好きな長男、家族でよく電車や飛行機を見に行きました。そろそろ進路を決める高2の冬、二人で地本へ行き、自衛隊のコースの説明を受け、防衛大学校について教えていただきました。防大受験時は、募集広報官の方々に様々なご支援を頂き、本人も安心して受験する事ができたと思います。自衛官や自衛隊に少しでも興味のある方は、募集イベントや説明会に参加される事をお勧めします。自衛隊にはいろいろな職種がある事を知り、将来の自分をイメージする事は進路選択の助けになると思います。

長男は、防大、幹部候補生学校卒業して、遠洋練習航海後、幹部自衛官として艦艇勤務や陸上勤務を経ております。私は艦艇一般公開へよく行きますが、一度体験航海の機会があり、目の前でそれぞれの配置（持ち場）について、艦が動く事に感動しました。体験航海や体験搭乗は、募集対象年齢の方には是非応募していただきたいと思います。制服を着用した長男の顔つきはキリッとしています。組織の一員として、長男を日々教育して下さった方々に感謝しております。国防任務や訓練に励む自衛官を誇りに思います。私も家族会の皆様と共に自衛隊を応援して参ります。切れ間のない国防には、人が必要です。多くの方に自衛隊を知っていただき、日本国を守る人材が増える様、微力ながら私も自衛官の皆様と共に自衛官募集に積極的に協力して参ります。

家族の声

「虫嫌いだった息子が…」

陸上自衛隊
大阪府自衛隊家族会　内田 美加

私の息子は、2023年4月、一般曹候補生として陸上自衛隊に入隊しました。我が家は、ひとり親家庭である為か、息子が3歳の時に「かあちゃんを守るんだ」と小さいながらも、健気なことを言っていました。息子に当時の事を話すと「そんな事言った覚えもないなぁ」と寂しい返答でした。

そんな息子も大学卒業後、自衛隊という厳しい世界に入ることになりました。てんとう虫さえも触れなかった息子。甘やかして育ててしまった息子は、厳しい訓練に耐えることができるのか、私の心の中は、不安ではち切れんばかりでした。そんな私の気持ちを広報官の方は、なんでも聞いて下さり、力強い励ましのお言葉も頂き私の不安も多少和らいでいきました。

入隊式では、大隊長を初めとして多くの方から力強い言葉を頂き、この道に進んだ息子は立派な方々の元で、働くことができるんだと感慨深いものを感じました。教育期間中は、厳しい訓練にも弱音を吐くことなく成し遂げていました。それは、一緒に生活する仲間の存在が、息子に力をくれているんだと感じました。

時折連絡してくるメールでは「みんな辛いけど頑張っている、誰も弱音を吐かない」と辛いけど楽しんでいる生活の様子を書いてきました。息子は口には出さないけれど「かあちゃんを守る」という小さい頃の夢が、今は「日本の国民を守る」という気持ちへと変化しました。虫嫌いで、私にくっついてばかりだった息子は、大きな目標に向かって走っています。これからも応援しています。

海洋国家日本の防人としての誇り

海上自衛隊
鹿児島県自衛隊家族会　楠松 節朗

自由主義を標榜する陣営と共産主義・独裁主義国家との覇権争いとも思える戦争が長期にわたって継続し混沌とする世界情勢下において、まさに我が国は確固たる立ち位置を世界に示さねばならない時です。

我が国がいかなる国からも侵略されない為には、国は明確に国益を国民に周知し、一人一人が自らの国は自らが護るという強い意志を持たせねばなりません。

この様な考えを若かりし頃より持つ私の言動を感じていたのか、息子は大学進学の際に熟慮の末、防衛大を選択し防衛の道に就くこととなりました。私は一言も口を出さ無かったゆえに、心中嬉しく安堵しました。

息子が幼少期より希望していた固定翼操縦士とは相反する潜水艦勤務に就労することが告げられた折には、母親に自衛隊を辞職したい旨を伝えてきましたが、「国家が育てた隊員を安易に防衛省が辞めさせる訳があろうかと」私は国の意向と本人の意志を信じていました。

その息子も今は国や自衛隊という組織が立派に育成して頂いたおかげで自己の職務に責任と誇りをもって勤務しています。護衛艦、潜水艦での約10年間の海上勤務に一区切りを付け、三十代後半の年齢となった現在は責任のある立場へのステップアップのために再び自衛隊の学校教育の機会を得ています。

心身ともに研鑽し自衛隊組織の牽引者の一員に成るべく成長し、宿命に堪え使命を果たすことを願う。

まさに海洋国家日本を「我は拾わん海の富　我は護らん海の国」たれ。

「家族の声」への投稿募集！

皆様のご自慢のご子息ご息女の入隊・入校にまつわるお話を募集いたします。
文章（600字程度）と写真を下記アドレスにお送りください。
たくさんのご投稿をお待ち申し上げております。【7月末迄】
jkazokukai@jkazokukai.or.jp

航空自衛隊

「感謝」

神奈川県自衛隊家族会　風間 直美

娘は無事に航空自衛隊第27期自衛官候補生課程を修了し、7月13日に防府南基地で卒業式を迎えることができました。入隊前から、教育隊での生活、日々の訓練の厳しさなどを回りから聞いていたので、不安な気持ちも払拭できませんでした。

本人からの連絡のたびに「もしかしたら辞める気では？」とドキドキしましたが、娘はこの３カ月の間、一言も「辛い」という言葉もなく、日々の状況報告や笑い話をしていました。ついこの間まで学生で、自由な生活をしてきたのに、「辛い」と言わない娘が毎回不思議に思え、何度聞いても「大丈夫だから心配ないよ！」という返答でした。

そんな日々を過ごしながら卒業式を迎えました。久しぶりに会う娘は日焼けをし、制服がすっかり似合う素敵な女性になっていて凛々しく見えました。式典終了後、お祝いの食事で「おめでとう」と伝えた途端に泣き出した娘。続く言葉に、私も思わず涙してしまいました。

「本当は何度も辛くて逃げ出したかったし、辞めたいとお母さんに話したかった。でも、言えば心配するから言えなかった。同期の仲間もみんな頑張っていると思ったら私も頑張らないといけないと、弱音なんか吐いていられないと思いここまでやってこれた！」

教育隊での経験はこれからの人生にとって大切なことを学び、成長させてもらった貴重な時間となったことや、大勢の方々に支えられ、励ましていただいたことへの感謝の思いを話してくれました。短期間で大きく成長させていただいたことに、私も感謝の思いでいっぱいです。

福岡県・築城基地が任地となり、本人の希望していた仕事へ新たな一歩を踏み出しました。改めて、頑張った娘を誇りに思います。自分の志望する道へ進めるよう、努力を惜しまず前進あるのみといつも願っています。感謝！

陸上自衛隊

「我が家は陸上自衛官一家」

鹿児島県自衛隊家族会　樒柑山 洋一

私は定年まで勤務した元陸上自衛官です。息子は自衛隊生徒（現在の高等工科学校）で入隊して現在、鹿児島に妻と子供３人を残し、東京で勤務しています。長女は３任期勤務して５年目に結婚し、３人の子供を育児中です、又、長男の妻も元自衛官です。

父は、警察予備隊で長崎県の針尾や鹿屋で１任期勤務し、又、陸軍士官学校出の叔父は再入隊し、定年まで勤務して札幌に骨を埋めました。

息子が入隊した頃、警察官であった義兄に自衛隊を紹介・説明した結果、その息子２人も入隊しました。彼らも40代になり、各々家族を持ち、近畿と九州で活躍しています。この様に我が家にとって自衛官は身近な職業であり、かつ国を護る崇高な職業であることに誇りを持っています。

子供は、私が新婚時代を過ごした長崎県の大村を始めとして、久留米、遠く日本最北端の礼文島、東千歳で過ごした経験から、勤務地日本の何処にでも鹿児島の地を離れて入隊・生活する事に不安を感じる事はなかったようです。

又、若い頃、私は妻に異動を利用して国内を旅行しよう（不謹慎ですみません。）と語ったものでしたが、意を得てか、単身赴任２年半の沖縄へは、格安航空券を利用して延べ16回も足を運んでくれました。

皆様もご子息ご息女が入隊して、初めて知った事が多くあると思います。皆さん、隣近所で自衛隊や自衛官の話しをして、自衛官募集協力に力を尽くしましょう。